

臨床研究に関する公開情報

公立陶生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了承できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

間質性肺疾患の急性増悪による身体機能や健康関連 QOL への影響、および急性増悪後における呼吸リハビリテーションの効果についての検討

[当院研究責任者]

部署名 中央リハビリテーション 氏名 小川智也

[研究の概要]

間質性肺疾患は徐々に悪化を示すが、時に急激な悪化をきたす急性増悪を招きます。なかでも特発性肺線維症の急性増悪は 50%以上の高い死亡率と報告されています。急性増悪により身体機能(肺機能、運動能、呼吸困難)や QOL は悪化すると報告され、これらの指標は疾患進行の指標となるとされています。以上より、間質性肺疾患の急性増悪による身体機能や QOL の変化は疾患進行を把握するために重要と考えられますが、急性増悪による影響の程度は不明です。そこで今回、間質性肺疾患患者さんを対象に、急性増悪による身体機能や QOL の変化を調査し、その影響の程度を把握することを目的といたします。

一方、安定期間質性肺疾患に対する呼吸リハビリテーション(以下、呼吸リハ)は運動能、呼吸困難、QOL の改善に有用性があると報告されつつあります。しかし、急性増悪後の間質性肺疾患に対する呼吸リハの効果はまだ検証されていないため、急性増悪後における呼吸リハが機能回復に寄与するかを検証いたします。

本研究にて、間質性肺疾患の急性増悪により身体機能や QOL の悪化の有無や程度を把握し、その後の対策として呼吸リハの有用性の可否を判断する事が可能になると考えています。

[研究の方法]

- 対象となる患者さん：2008年9月～2022年12月までに間質性肺炎患者さんの急性増悪で入院した患者さんのうち、身体機能や QOL の評価を実施された方。
- 除外基準は整形疾患や認知症などで運動機能評価が実施不可能、同意が得ら

れない、不安定な気胸や縦隔気腫、病態が不安定な方です。

- 研究期間：倫理委員会承認後から 2030 年 3 月までです。
- 利用するカルテ情報 年齢・性別・身長・体重・疾患名等の特性、肺機能検査、運動機能検査、アンケート等の各指標です。
- 利用するカルテ情報の管理：情報は当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

収集する情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用いたしません。

[問い合わせ先]

公立陶生病院

所属部署 中央リハビリテーション部 氏名 小川智也、渡邊文子

電話 0561-82-5101